

社長さんが知っておきたい
冠婚葬祭のマナー



～いまどきのご葬儀①～

前回までは、大人の知恵袋として「五節句(ごせっく)」についてご紹介しました。今回は、時代やコロナ禍を経て変化しつつ

あるご葬儀の在り方について、お伝えしたいと思います。

コロナ前まで、葬儀業界では核家族化から家族葬が主流になってきていました。現役世代で

は、交友関係が希薄になってきていることから、お互いプライベートなことにあまり関

わらなくなってきたり、高齢の方だと、引退後は年々連絡が取れる人が減るなど、連絡しようにも知らせる術がないような状況も増えてきています。

昔のように「(葬儀を)やらなくてはいけな」という風潮が薄れ、「みんな小さくやっているから、うちも…」「残された家族に費用

も手間も負担をかけたくない」といった理由から、気持ちのある人だけで集まり必要最低限に、という風潮が高まったことも、家族葬が広まった一因でもあったかと思います。

忌引休暇としてもらうため会社に知らせるものの、参列やお香典などは辞退したり、商売をやっていて跡継ぎがいるような

方であれば、社葬などで広く周知することまではしなくても、取引先へのお知らせやご挨拶を必要最低限行うようなスタイルが当社でも増えてきています。

今回は、コロナ禍でのご葬儀とアフターコロナの今について、お伝えしたいと思います。
(fami友葬・清水ふじ代)